

第一回 留学便り

2014.10.5

国際社会学部 イタリア語専攻 3年

山崎 杏奈 (PRSP 班)

留学先: トリノ大学 (イタリア、トリノ)

Universita' degli studi di Torino (Turin, Italy)



Mole Antonelliana

宇野ゼミの皆様、ご無沙汰しております。いかがお過ごしでしょうか。

9月21日にイタリアのトリノに到着して2週間が経過致しました。到着後最初の1週間は、滞在許可の取得、大学の入学登録等で諸手続きに奔走しておりましたが、それもようやくひと段落したところで1回目の留学報告をさせていただきます。

トリノは、スイス・フランスと国境を接するピエモンテ州の州都で、イタリアの北西部に位置しています。街の雰囲気などもフランスらしい側面をもつとよく言われる都市ですが、碁盤の目状に道が行き交うこの街はまるで迷路のようで、土地勘をつかむまでには時間を要しました。また、イタリアで最も長い川であるポー側を有し、物質的にも非常に生活しやすい街です。

私が通うトリノ大学は、ノーベル賞受賞者を複数輩出した、ヨーロッパの中でも特に深い歴史をもつ大学の一つです。学部の種類も多く、街中の至る場所にキャンパスを構えています。外大からきた私はその規模の大きさと人数の多さに辟易してしまうこともしばしばですが、日々多くの刺激を受けながら過ごしています。

大学では、留学生向けのイタリア語の授業の他、経済学部の授業をいくつか履修する予定です。「予定」、というのも、10月初週は外大の学期初めの1週目と同様、様々な授業の様子見といった状況で、どの授業を履修するかはもうじき確定させる予定であります。専門性の高い授業を現地学生と同じように受けて同じように理解するのは決して容易ではありませんが、常に辞書を片手に根気よくやっていく所存です。



(複数あるキャンパスの中でも特に古い建物。重厚感があり、通学する学生のみならず観光客もよく訪れます。ここで留学生向けオリエンテーションが行われました。)

イタリアの大学の授業は通常、1つの授業につき1日1コマ2時間(or 3時間)、それが週に3日(or 2日)といった仕組みになっています。そのため必然的に履修する授業の種類は減りますが、一つ一つの授業のボリュームが大きく、試験前の対策はそれなりにハードなものになるかと思われます。また、基本的に配布されるレジュメなどはなく、頼りになるものは自分のノートか教授が推薦する学术書かといった形です。(Moodleは発達しています。) 試験の方式は日本と同様論述の場合もありますが、口述試験を課される場合がしばしばです。この機会に様々なアウトプットの形式を吸収できればと思っております。

トリノはまだまだ日中は暖かいですが、10月にさしかかり到着した頃よりも少しずつ気温が下がってきました。冬期オリンピックを開催した都市でもありますのでやはり冬の寒さは厳しいようですが、クリスマスシーズンに入ってより一層賑わう街を歩くことを今から心待ちにしております。

それでは、ジュネーブで皆様にお会いできることを楽しみにしております。



(経済学部のキャンパス。(Luigi Einaudi) 近代的な外観で、全ての棟が曲線状になっています。大学の寮はこの隣の敷地にあります。)



(経済学部のキャンパス内部。複数あるキャンパスの中でも特に新しい建物です。写真下の液晶画面に何時に何の授業がどこで開講されるかが表示されています。)